

厳格かつ適正な成績管理の実施について

1 授業計画書（シラバス）

ホームページに掲載しています。

2 成績評価の客観的な指標算出方法

科目の評価にあたっては、それぞれの科目において終講試験単一の方法にならないように、「レポート・課題の提出状況及びその内容」や「授業や実習への取り組み状況」等を加味することを申し合わせている。

年度末開催の講師会議において、終了した基礎分野を除く科目について総合点、個人の平均点を算出し、クラス順位を出している。

基礎分野を除く理由については、「既修得単位の認定」制度を利用して単位認定を申請する学生が出た場合クラス順位を付けられないためである。

3 卒業認定

(1) 成績は100点を満点として判定し、得点の評語の読み替えは次の通りとする。

優 (100点～80点)

良 (79点～70点)

可 (69点～60点)

不可 (60点未満)

とし優、良、可をもって合格とする。

(2) その年度に履修予定の科目が未履修となったとき、次年度履修しなければならない。

(3) その年度に履修予定の科目のうち、未履修または不認定の科目が2科目以上の場合留年となる。

(4) 人体の構造と機能に関わる科目（解剖生理学総論・解剖生理学各論Ⅰ・解剖生理学各論Ⅱ・解剖生理学各論Ⅲ）のうち1科目でも未履修または不認定の場合は留年となる。

(5) 専門分野 基礎看護学（看護研究を除く）のうち1科目でも未履修または不認定の場合は留年となる。

(6) 留年し再履修した科目の成績は、前年までに認定された成績と良い方の成績を残す。

(7) 3年間以上在籍し、必修103単位の科目をすべて修得し、行事及び必要とされた研修会に出席した者は卒業を認める。